

第  
**2**  
章

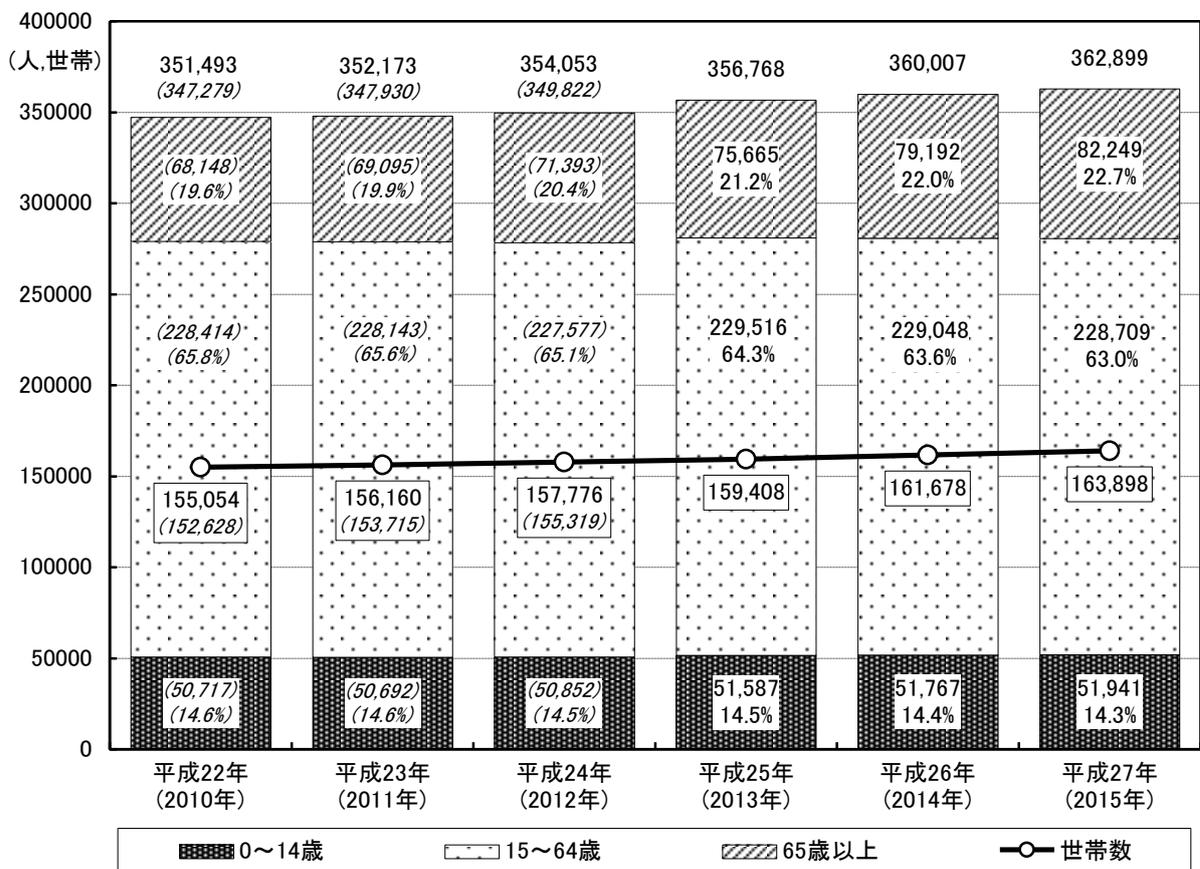
吹田市の障がい者の状況

# 1 人口の推移

吹田市の人口及び世帯数は、緩やかに増加する傾向が続いています。

年齢区分別にみると、0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口については横ばい状況にあるのに対し、65歳以上の老年人口は増加の一途をたどっており、平成27年（2015年）3月末現在の市民全体の占める65歳以上の人の割合（高齢化率）は22.7%となっています。

人口・世帯数の推移



資料：住民基本台帳（外国人を含む。3月末現在）

※平成22年(2010年)から平成24年(2012年)の人口総数と世帯数は外国人を含む数と、外国人を含まない数(斜字)を併記しています。また、年齢別人口と人口総数に占める構成比は日本人のみで外国人を含んでいません。このため、各年齢区分の合計値と外国人を含む人口総数とは一致しません。

## 2 障がい者の状況

### (1) 障がい者手帳所持者の状況

#### 1) 概況

吹田市の身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の所持者数はそれぞれ毎年増加しています。

各障がい者手帳の所持者数を合計すると、平成26年度（2014年度）末現在18,775人（重複分を含む）となり、吹田市の人口総数の5.2%にあたります。また、平成22年度（2010年度）と比べて13.5%の増加となっています。

障がい者手帳所持者数の推移

	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)
人口総数 a	352,173人	354,053人	356,768人	360,007人	362,899人
手帳所持者総数 $b=b_1+b_2+b_3$	16,547人	17,439人	17,878人	18,282人	18,775人
身体障がい者手帳 b1	12,697人	13,347人	13,479人	13,606人	13,824人
療育手帳 b2	2,258人	2,369人	2,481人	2,569人	2,699人
精神障がい者保健福祉手帳 b3	1,592人	1,723人	1,918人	2,107人	2,252人
手帳所持者の比率 $c=b/a$	4.7%	4.9%	5.0%	5.1%	5.2%

※人口総数は各年度末現在の住民基本台帳人口（外国人を含む）、  
各障がい者手帳所持者数は各年度末現在（総数には重複分を含む）

## 2) 身体障がい者

身体障がい者手帳所持者数は、平成26年度（2014年度）末現在13,824人で、平成22年度（2010年度）と比べて1.09倍となっています。

主障がいの部位別にみると、肢体不自由、内部障がいの順で多く、年齢別には、18歳未満の人は手帳交付者全体の2.3%にとどまり、65歳以上の方が72.2%を占めています。また、等級別には1級と3・4級の方が毎年増加しています。

主障がいの部位別・年齢別身体障がい者手帳所持者数

区 分	総 数	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	肢体不自由	音声・言語・そしゃく機能障がい	内部障がい
平成22年度(2010年度)	12,697人	865人	912人	7,443人	175人	3,302人
平成23年度(2011年度)	13,347人	901人	921人	7,838人	179人	3,508人
平成24年度(2012年度)	13,479人	863人	935人	8,008人	169人	3,504人
平成25年度(2013年度)	13,606人	859人	925人	8,112人	166人	3,544人
平成26年度(2014年度)	13,824人	856人	956人	8,196人	165人	3,651人
うち18歳未満	314人	14人	50人	173人	3人	74人
18歳～39歳	755人	69人	83人	389人	12人	202人
40歳～64歳	2,768人	184人	135人	1,701人	49人	699人
65歳以上	9,987人	589人	688人	5,933人	101人	2,676人

※各年度末現在

等級別・年齢別身体障がい者手帳所持者数

区 分	総 数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
平成22年度(2010年度)	12,697人	3,641人	2,142人	2,234人	3,498人	631人	551人
平成23年度(2011年度)	13,347人	3,833人	2,181人	2,393人	3,699人	661人	580人
平成24年度(2012年度)	13,479人	3,827人	2,176人	2,437人	3,785人	661人	593人
平成25年度(2013年度)	13,606人	3,905人	2,118人	2,484人	3,848人	658人	593人
平成26年度(2014年度)	13,824人	4,031人	2,096人	2,492人	3,871人	711人	623人
うち18歳未満	314人	133人	79人	44人	29人	12人	17人
18歳～39歳	755人	264人	148人	123人	128人	54人	38人
40歳～64歳	2,768人	875人	490人	402人	670人	189人	142人
65歳以上	9,987人	2,759人	1,379人	1,923人	3,044人	456人	426人

※各年度末現在

### 3) 知的障がい者

療育手帳所持者数は、平成26年度（2014年度）末現在2,699人で、平成22年度（2010年度）と比べて1.20倍となっています。

判定別にみると、重度であるAが全体の49.2%を占めて多く、各判定とも毎年増加する傾向にあります。年齢別には、18歳未満の人が31.2%、18歳以上の人68.8%の割合となっています。また、身体障がい者手帳と療育手帳を重複して所持している人は、毎年増加しています。

判定別・年齢別療育手帳所持者数

	総数	A（重度）	B1（中度）	B2（軽度）
平成22年度(2010年度)	2,258人	1,135人	499人	624人
平成23年度(2011年度)	2,369人	1,183人	504人	682人
平成24年度(2012年度)	2,481人	1,230人	516人	735人
平成25年度(2013年度)	2,569人	1,256人	540人	773人
平成26年度(2014年度)	2,699人	1,327人	543人	829人
うち18歳未満	842人	349人	118人	375人
18歳～39歳	1,129人	547人	252人	330人
40歳～64歳	645人	378人	148人	119人
65歳以上	83人	53人	25人	5人

※各年度末現在

身体障がい者手帳と療育手帳の重複所持者数

	総数	A（重度）	B1（中度）	B2（軽度）
平成22年度(2010年度)	518人	426人	46人	46人
平成23年度(2011年度)	531人	439人	45人	47人
平成24年度(2012年度)	548人	453人	44人	51人
平成25年度(2013年度)	552人	457人	44人	51人
平成26年度(2014年度)	563人	469人	41人	53人
うち18歳未満	155人	132人	4人	19人
18歳以上	408人	337人	37人	34人

※各年度末現在

#### 4) 精神障がい者

精神障がい者保健福祉手帳所持者数は、平成26年度（2014年度）末現在2,252人で、平成22年度（2010年度）と比べて1.41倍となっています。等級別には、2級が64.8%を占めており、2・3級については毎年増加しています。

通院医療費公費負担の受給者数も増加傾向にあり、平成26年度（2014年度）末現在4,503人となっています。

精神障がい者保健福祉手帳所持者数及び通院医療費公費負担受給者数

	精神障がい者保健福祉手帳所持者数				通院医療費公費負担受給者数
	総数	1級	2級	3級	
平成22年度(2010年度)	1,592人	300人	1,008人	284人	3,633人
平成23年度(2011年度)	1,723人	312人	1,093人	318人	3,941人
平成24年度(2012年度)	1,918人	310人	1,245人	363人	4,404人
平成25年度(2013年度)	2,107人	302人	1,378人	427人	4,474人
平成26年度(2014年度)	2,252人	293人	1,460人	499人	4,503人
うち18歳未満	94人	4人	55人	35人	
18歳～64歳	1,764人	137人	1,204人	423人	
65歳以上	394人	152人	201人	41人	

※各年度末現在

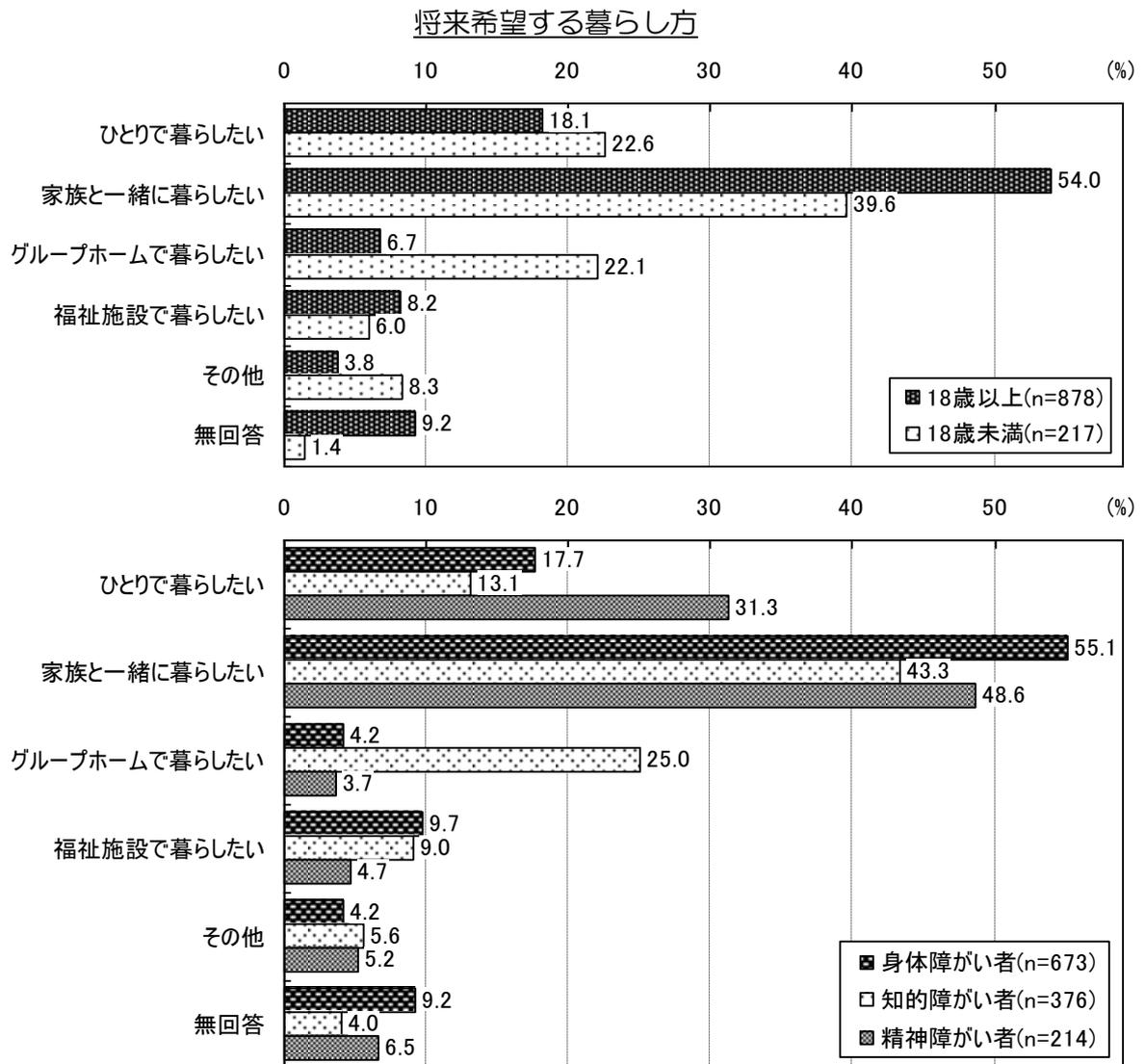
## (2) 障がい者施策に関わる市民の意識

「第4期吹田市障がい福祉計画」の策定時に実施したアンケート調査\*の結果から主な結果を紹介すると、次のとおりです。

\*「第4期吹田市障がい福祉計画策定」のためのアンケート調査：身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳を持つ18歳以上の市民1,917人、18歳未満の市民603人を対象として平成26年（2014年）9～10月に実施。有効回答1,095人（42.6%）

### 1) 将来希望する暮らし方

将来の暮らし方として、「家族と一緒に暮らしたい」という人が多くを占めています。また、障がい種別には精神障がい者で「ひとりで暮らしたい」、知的障がい者で「グループホームで暮らしたい」という人が比較的多くみられます。

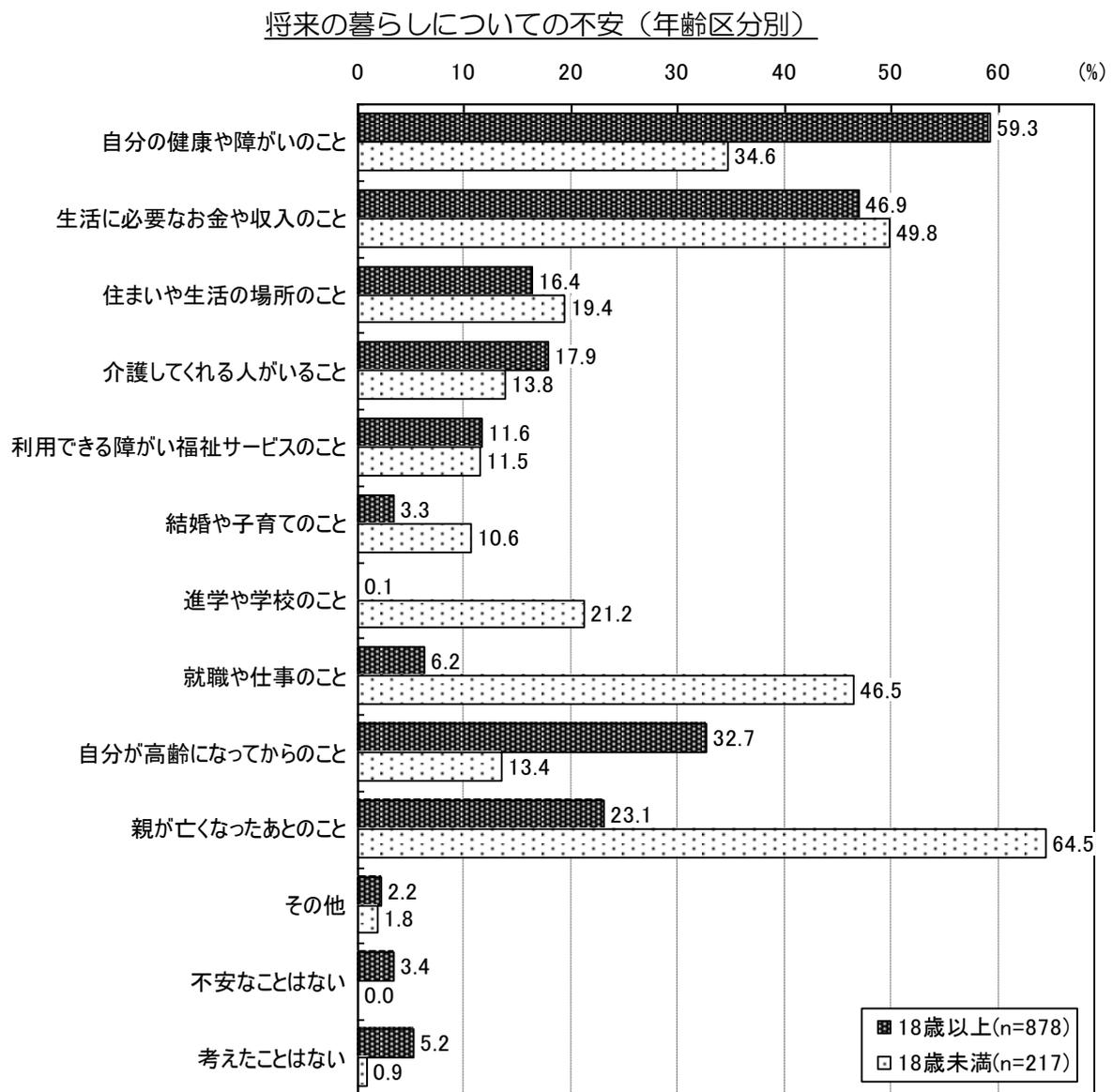


※「第4期吹田市障がい福祉計画策定」のためのアンケート調査

## 2) 将来の暮らしについての不安

将来の暮らし方について不安に思うこととして、18歳以上の人では「自分の健康や障がいのこと」が59.3%と最も多く、次いで「生活に必要なお金や収入のこと」が46.9%、「自分が高齢になってからのこと」が32.7%などとなっています。

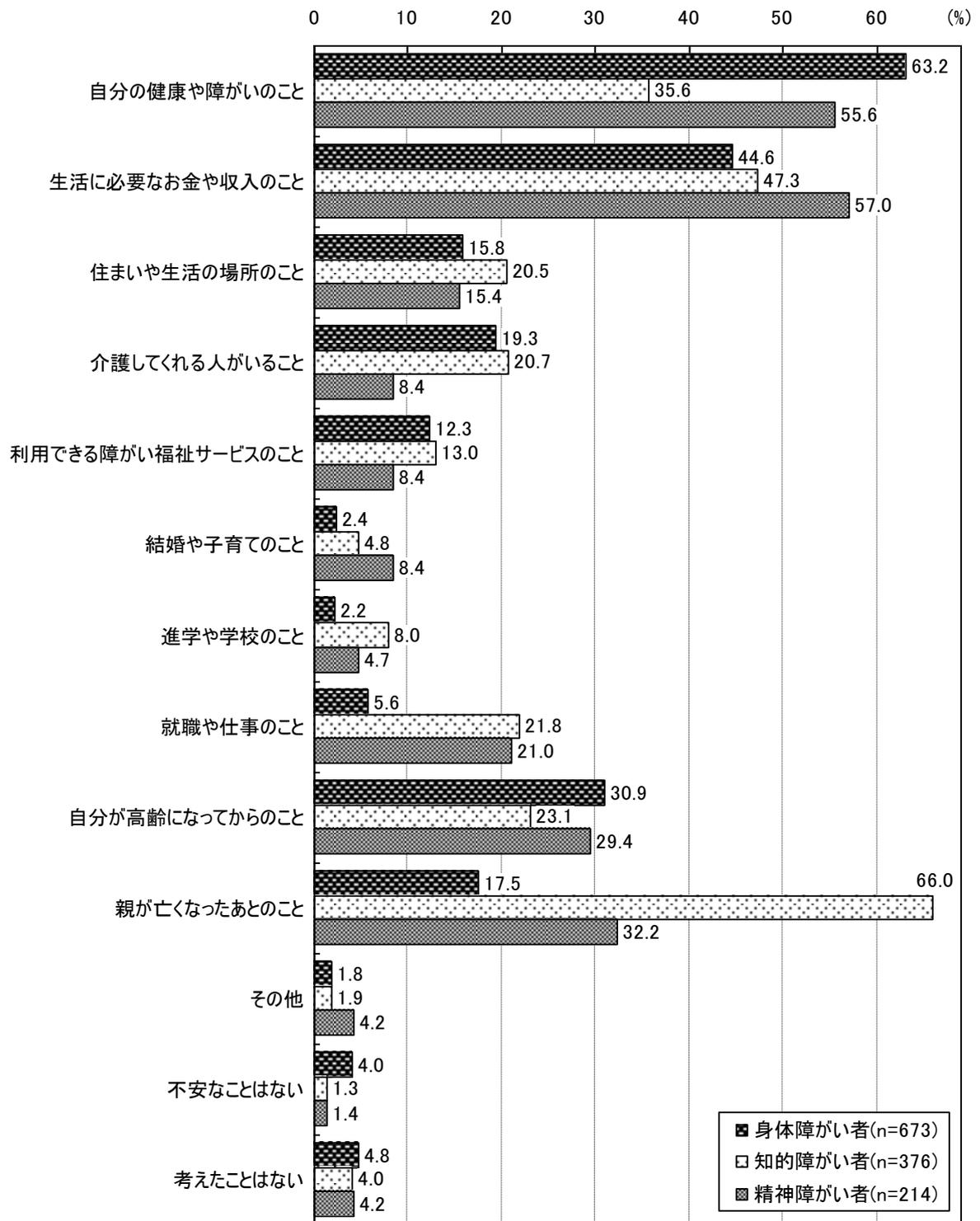
18歳未満の人では、「親が亡くなったあとのこと」が64.5%ととりわけ多く、これに次ぐ「生活に必要なお金や収入のこと」(49.8%)、「就職や仕事のこと」(46.5%)も半数近くを占めています。



※「第4期吹田市障がい福祉計画策定」のためのアンケート調査

障がい種別ごとに最も割合の高い項目をみると、身体障がい者では「自分の健康や障がいのこと」が63.2%、知的障がい者では「親が亡くなったあとのこと」が66.0%、精神障がい者では「生活に必要なお金や収入のこと」が57.0%となっています。

将来の暮らしについての不安（障がい種別）



※「第4期吹田市障がい福祉計画策定」のためのアンケート調査

### 3) 障がい者施策に対する関心

障がい者施策の推進・発展に向けて吹田市に取り組んでほしい内容を尋ねたところ、18歳以上の人では「障がいや生活に応じて適切な相談・支援をしてくれる窓口を充実する」が49.4%と最も多く、次いで「家族が介護をできないときに利用できるショートステイを充実する」と「利用料の自己負担を軽減する」がそれぞれ33.0%となるなど、相談支援体制や障がい福祉サービスの利用に関心が寄せられています。

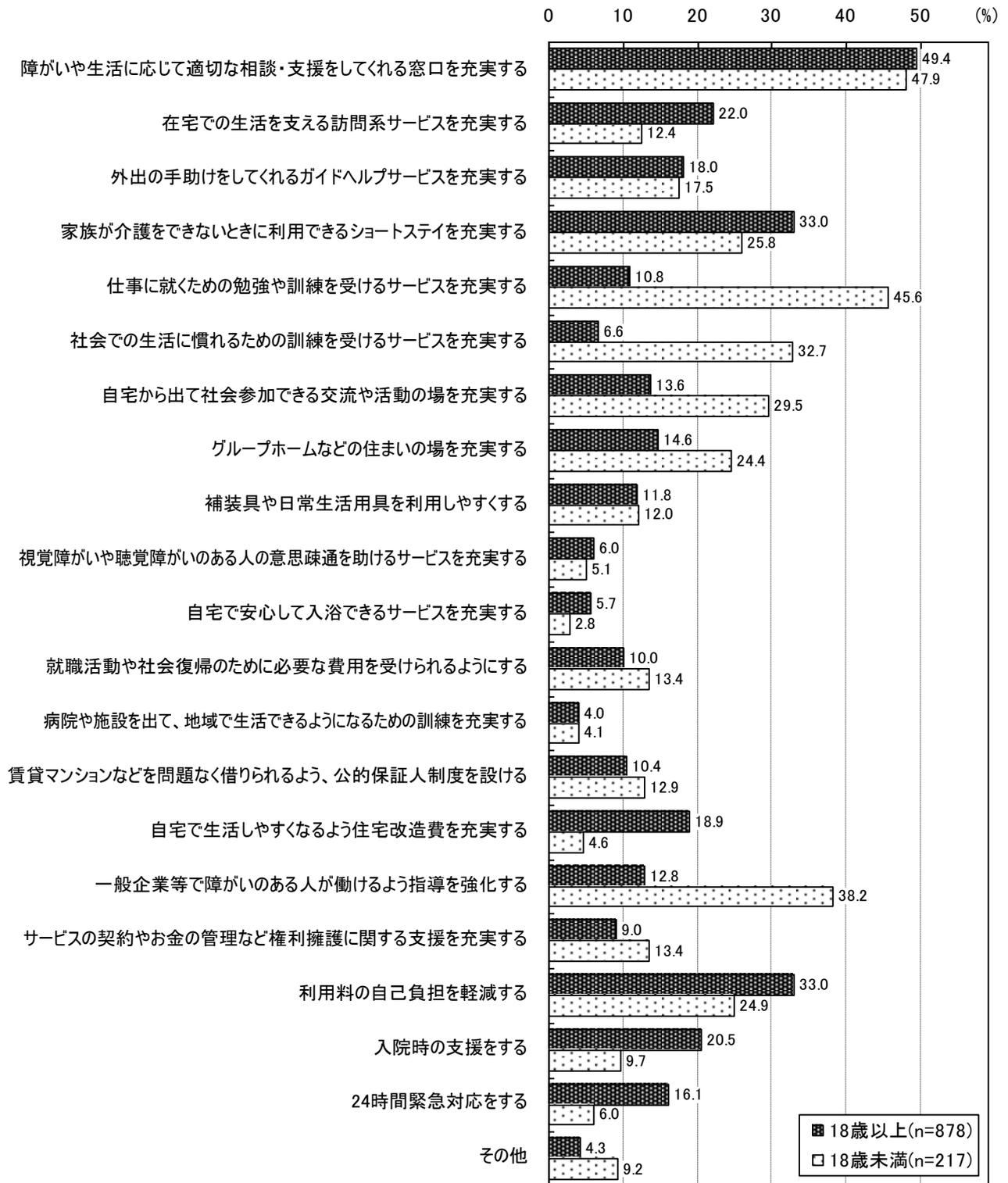
18歳未満の人についても「障がいや生活に応じて適切な相談・支援をしてくれる窓口を充実する」が47.9%と最も多くを占めていますが、これに次いで「仕事に就くための勉強や訓練を受けるサービスを充実する」が45.6%、「一般企業等で障がいのある人が働けるよう指導を強化する」が38.2%となるなど、就労支援に対する高い関心が見受けられます。

障がい種別ごとに見ても、「障がいや生活に応じて適切な相談・支援をしてくれる窓口を充実する」は身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者のすべてで50%前後を占め、最も多くみられます。

また、「家族が介護をできないときに利用できるショートステイを充実する」は知的障がい者の36.7%、身体障がい者の33.9%を占め、それぞれ2番目に位置しています。

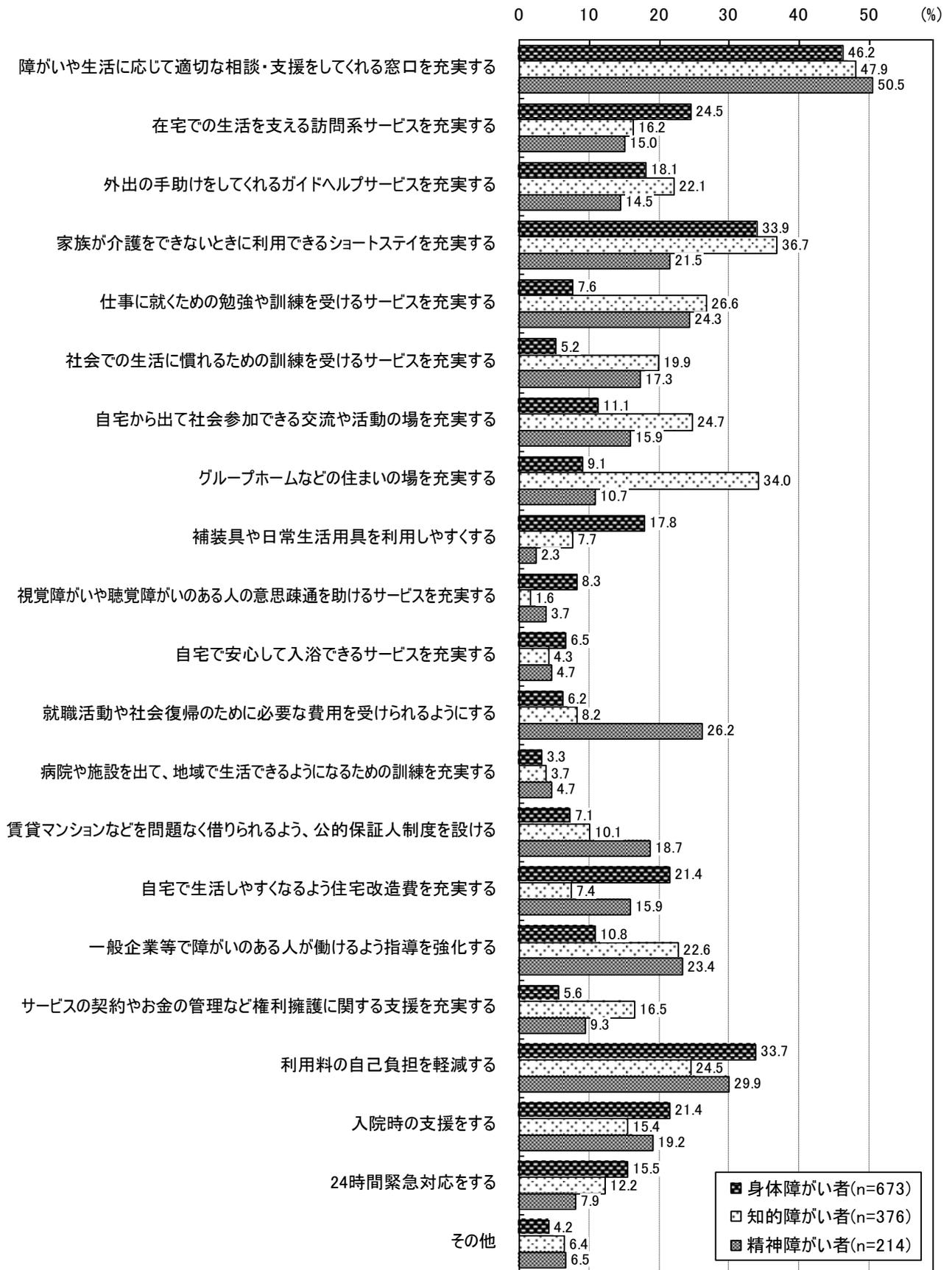
このほか、「グループホームなどの住まいの場を充実する」や「自宅から出て社会参加できる交流や活動の場を充実する」は知的障がい者で他の障がい種別より関心が高く、精神障がい者では「就職活動や社会復帰のために必要な費用を受けられるようにする」や「賃貸マンションなどを問題なく借りられるよう、公的保証人制度を設ける」が多くみられます。

障がい者施策の推進・発展に向けて取り組んでほしい内容（年齢区分別）



※「第4期吹田市障がい福祉計画策定」のためのアンケート調査

障がい者施策の推進・発展に向けて取り組んでほしい内容（障がい種別）



※「第4期吹田市障がい福祉計画策定」のためのアンケート調査